



なる様な空間だろう。
ねこに注ぐ
眼差しも優し
い。全体に確
かな手作り感
があつて、氣
持ちのいい展
示空間を作っ
ている。「木
工房のねこた
ち展」は、今
日まで。

『当別文芸』創刊

昨年四月に発足し、読書会などを開いてきた「当別文芸の会」（河地良一代表）が、文芸誌『当別文芸』を創刊した。

隨筆・エッセイが十四篇、生活体験・自分史が八篇、紀行文が四篇、評論・研究が五篇収録されている。

B五版、一七七頁。頒価八〇〇円。
ふれあい倉庫、F・I・K・A、十字屋書店
などで取り扱っている。

あわせて、『当別文芸』第二号の原稿も募集している。原稿締め切りは、平成二十四年一月末まで、同年六月刊行予定。



毎年開かれている
「木工房のねこたち
展」が、今年も七月
二日（土）から一〇
日（日）までふれあ
い倉庫多目的ホール
で開催中である。写
真。木工房樹喜舎
(蕨岱) の小林夫妻
が主催。

樹喜舎の机と椅子、テーブル、ちゃぶ台文庫棚など、それぞれ丁寧に仕上げられた家具類の展示がまず目を惹く。職人のいい仕事ぶりは、見ても触っても気持方がいい。会場を、「こ」うして置かれた木工家具が空間をしつかりと支え、そこに飼い猫の四季折々の表情、風景を撮った写真が飾られる。勿論フレームは樹喜舎の

オリジナル。いつ
い何匹の猫が登場す
ているのですかと聞
いてみると、実は娘
猫三匹だという。娘
の様々な表情・しゃ
さが、当別の四季を
背景に撮られていつ
から、一〇匹ぐらいい
の猫が被写体になっ
ているのかと思つた
ほどだ。

A wide-angle photograph of a lush green forest. The foreground is filled with dark green foliage, while the background shows more trees and a bright, clear sky. The overall atmosphere is peaceful and natural.

A close-up view of a large, round hay bale in a field. The bale is made of dry, yellowish-brown straw. In the background, there are several green trees with dense foliage. The lighting suggests it's daytime.

が、 滅子汚喉握子め海お

前たちが葬れ
にまなび陽と風をみつ
つ
らが
る土くれ
をうるおす一杯の水を
な
子孫孫に残すものは
ふ栄華ではなかろうに

が、献花し黙祷した。この日参加したのは、「平和と教育を考えるツアーリンゴ会」（事務局・北海道平和委員会）が主催した「当別・石狩劉連仁の足跡をたどるツアーリー」の一行二名。ツアーコーナー企画は、（株）共

A group of elderly people, mostly women, are standing behind a low stone railing. They are dressed in casual clothing, including blouses, jackets, and hats. The setting appears to be a park or a garden with green trees and hills in the background under a clear sky.

「木工房のね」たち展」開催中！ふれあい倉庫で今日まで。

お前たちが造りだしたもの

当別新聞販売センター
ASA石狩当別
毎日新聞販売所
〒061-0227
石狩郡当別町園生711
電話
0133-23-2066
FAX
0133-23-2099

<http://www.hbt.co.jp>
(ASA on HTB)
このホームページでは、
当別新聞が毎週更新
されていてカラーで見
ることができます。

連仁記念碑に献花・黙祷―
平和と教育を考えるツアーリー
参加者、当別を訪れる



みなどについて語つた。語り継ぐ会事務局長今野一三六さん（若葉）が、今後も劉連仁さんのことを忘れず語り継いでい

選定、推奨し徳川家康自ら修築の指揮を執り、同年九月二十三日政宗が入部、名を岩出山城と改めた。政宗の仙台城移転後の慶長八年（一六〇三）年、四男宗泰が二歳で入部、仙台藩一方の要害のまもりとして、以来宗泰を祖とする岩出山伊達氏が代々城主をつとめた。政宗の仙台移転後

入口のついた土塁がある。東西に二分される。二ノ丸（四六間四方）は南の屋根上にあたり、間の泥奥に居所があつた。本丸・二ノ丸の側面には多くの平地が造成された。

北辺は天然の断崖で真下を江合川から引き入れた内川（かんがい・防火・風致の用水路）が東流する。西方は丘陵地で

どがあり、政宗が實際居城した期間は一年にも満たない。岩出山「城」は元和元年閏六月、幕府の一国一城の制により「要害」と呼称するよう決められた。しかし、ながい慣習は容易に改められないと。「お城」は、公式的記録・文書以外、家中のあいだで隠語のように通用した。

四〇・小人屋敷――
とある。岩出山伊達四代村泰は享保四年（一七一九）年に家臣の子弟教育のために学問所有備館を設置した。南北九間、東西の南辺が七間、奥行一間半、单層の寄棟造り萱葺きの書院造りである。

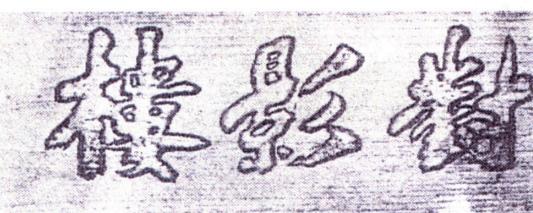
い、館中最高の室として孔子廟のよう
に崇敬されていた。當時の玄関にかかる
た桐材の扁額「対影
樓」の三文字は洞蔵
の書で、有備館が落成したとき藩主吉村
が賜つたものという。有備館敷地の大半
は庭園になつていて、庭内に周囲四丁余
の池がある。池に小島が点在し、茶の島には
朱塗の橋がかかり

大樹が池の面に影をうつしている。
有備館庭園の池のほとりに佇んで、城山を仰ぎ見ると、内川のせせらぎを隔てて高さ百尺といわれる城山の断崖が迫り自然の造形と庭園が調和して幽遠な風景を醸成している。

同庭園は、この断崖を借景にして茶道家清水道竿が作庭したものである。

亜麻まつり（旧東農	（田） 北海道
小学校	午前七時
十一日（月）おは	よう町長室（応接
室 午前八時半）	友遊会（ゆうゆう
午前十時）	午前十時）
十二日（火）高橋	哲夫油絵展（ふれ
あい倉庫 二十四	日まで）
ドルフィンスイ	ミング（当別小学
校プール 午後五	

＜当別今昔＞145 坂田資志
「有備館 北の望郷樹（四）
～伊達レンをめぐる人々～」



対影樓の扁額



郡の各二村
計二十四ヶ
村の野谷地
開田をし、
天和三（一
六八四）年
一万四六四
三石八斗八
升とし、以
降幕末まで
変らなかつ
た。

オウム真理教の犯罪の追及や少年・少女たち思春期の問題などに伴走してきたフリージャーナリスト江川紹子の二〇年に及ぶ執念のノンフィクションである。

もともと、本書は一九九四年文藝春秋より単行本として、二〇〇五年新風舎より文庫として刊行され、今年、岩波現代文庫に収録された。内容が全く色褪せていないということだけではなく、今こそ読まれるべきアクチュアリティを備えている力作である。

警察・検察・裁判所のトライアングルに、マスメディアも加担した「冤罪」事件の数々が明るみに出て、長い長い再審請求の闘いが続き、「布川事件」のように無罪を勝ち取ったものもあれば、本件のように今だ再審無罪を勝ち取れない事件もある。

それだけではない。鹿児島の「志布志事件」や村木厚子さんの「事件」のように、新たな冤罪を生みかねない事態を目の当たりにして、トライアングルの構造は温存されていると思わざるを得ない。だからこそ、市民の持続的な監視の目、過去の冤罪事件を他人事としてみないで学習志が不斷に必要なのである

一九六一年三月、三重と奈良の県境を挟む葛尾部落が舞台である、現名張市。この三〇戸にも満たない小さな部落の懇親会で、ブドウ酒を飲んだ女性五人が悶死した。毒殺である。警察・検察・裁判所のトライアングルは、同部落内の奥西勝（当時三十五歳）を「三角関係のもつれによる犯行」として犯人に仕立て上げる。メディアの過熱した報道もそれに加担する。

それだけではない。本書で江川紹子が見詰めているのは、孤立した閉鎖的な部落の住人たちによるスケープゴート作りの情動である。誰かを「犯人」にすることで、「外」の視線を排除して、「内」の平穏を保とうと、住民たちは次々と証言を翻して、口裏を合わせていく。奥西さんが憎いというわけではなく、「お上」が「奥西犯人だ」というのなら排除するしかない、という態度である。しかし、これは果たして、この小さな部落だけの現象なのか、もっと広く社会が未成熟な日本という「世間」の本性方にまで及ぶのではないか。本書は問うていて

「世間」のあり方にまで及ぶのではないか、と本書は問つている。検査や裁判など刑事司法のあり方、報道の役割と責任、地域共同体の人々の反応

〇五年名古屋高裁第一部が出した再審開始決定を、ことあろうに〇六年同高裁第二部が決定取り消しをし、さらに昨年、最高裁は再審開始取り消しを破棄し名古屋高裁に差し戻し決定するという異例の展開になっている。

奥西勝さんはもう八十五歳。このままで「六人の犠牲者」になると本書は訴えている。

内科 教會當番医

平日夜間
午後7時～午後9時

土曜日
午後2時～午後5時

日淑祭日
午前9時～正午

午後2時～午後5時

第一屆江濱院(22-3111)

近—近蔭医院(23-3031)

近一近藤医院(23-2021)
勤=勤医協当別診療所(23-3010)
と=とうべつ内科クリニック

(22-1313)
さ=さわざき医院(25-2055)
スース白エー^ニ通内科循環器科

當別町
週間行事
予定

十六日(土) 青少年時	親子エンジョイパー
スポートの時間・練習	ク(総合体育館) 午後一時
合体育館、西当別「	ミセン無料開放(午前中)
(西当別コミセン)	パソコン相談室
午前十時	(ふれあい倉庫 午

それだけではない。鹿児島の「志布志事件」や村木厚子さんの「事件」のように、新たな冤罪を生みかねない事態を目の当たりにして、トライアングルの構造は温存されていると思わざるを得ない。だからこそ、市民の持続的な監視の目、過去の冤罪事件を他人事としてみて学ぶ志が不斷に必要なのである。

一九六一年三月、三重と奈良の県境を挟む葛尾部落が舞台である、現名張市。この三〇戸にも満たない小さな部落の懇親会で、ブドウ酒を飲んだ女性五人が悶死した。毒殺である。警察・検察・裁判所のトライアングルは、同部落内の奥西勝（当時三十五歳）を「三角関係のもつれによる犯行」として犯人に仕立て上げる。メディアの過熱した報道もそれに加担する。

それだけではない。本書で江川紹子が見詰めているのは、孤立した閉鎖的な部落の住人たちによるスケープゴート作りの情動である。誰かを「犯人」にすることで、「外」の視線を排除して、「内」の平穏を保とうと、住民たちは次々と証言を翻して、口裏を合わせていく。奥西さんが憎いというわけではなく、「お上」が「奥西犯人だ」というのなら排除するしかない、という態度である。しかし、これは果たして、この小さな部落だけの現象なのか、もっと広く社会が未成熟な日本という「世間」のあり方にまで及ぶのではないか、と本書は問うている。

捜査や裁判など刑事司法のあり方、報道の役割と責任、地域共同体の人々の反応など、今につながる様々な問題が、この事件には凝縮されているのである。

〇五年名古屋高裁第一部が出した再審開始決定を、こともあろうに〇六年同高裁第二部が決定取り消しをし、さらに昨年、最高裁は再審開始取り消しを破棄し名古屋高裁に差し戻し決定するという異例の展開になっている。

奥西勝さんはもう八十五歳。このままでは「六人目の犠牲者」になると本書は訴えている。